

1. 内外政

- ・17日、ティモフティ大統領は、モルドバ訪問中のフィッシャー・オーストリア大統領と会談。フィッシャー・オーストリア大統領は、30日の選挙後、モルドバは真の民主国家となるであろう旨発言。
- ・17日、ティモフティ大統領は、モルドバは2015年にEU加盟申請を提出する意図がある旨発言。
- ・18日、ヴォローニン共産党党首は、30日の選挙後、汚職にまみれた現政権にいる政党と連立形成交渉は行わないが、ドドン社会党党首も裏切り者と見なす旨発言。
- ・20日、ティモフティ大統領及びレアンカ首相は、モルドバ訪問中のコモロフスキ・ポーランド大統領及びポロシェンコ・ウクライナ大統領と会談。ティモフティ大統領は、中・東欧が鉄のカーテン崩壊25周年を祝い、モルドバにとって重要な今秋に、両大統領がモルドバを応援すべく訪問したことに感謝する旨発言。レアンカ首相と両大統領の会談では、各二国間関係、地域情勢、政治対話拡大、貿易・経済協力、国境インフラの近代化について議論。
- ・20日、フィラト自由民主党党首は、新内閣組閣の際の同党からの首相候補はレアンカ現首相である、選挙後もモルドバは欧州統合路線を推進するが、そのためには共産党は適したパートナーではなく、選挙後に自由民主党は共産党と連立

内閣を組む意向はない旨発言。

- ・20日、ドドン社会党党首は、モルドバ・EU連合協定を廃すれば、ロシアはモルドバ産製品の禁輸をやめるであろう旨発言。これに対し、21日、ブマコフ農業・食品産業相は、ドドン社会党党首の言うことをロシアが聞くわけがなく、実際はロシアがドドン党首を利用している旨述べ非難。

▼世論調査(次の日曜に議会選挙が実施された際の投票先)

- [社会意識バロメーター(公共政策研究所)](18日付発表)
共産党:21%、自由民主党:21%、民主党:18%、祖国(パトリア)党:12%、自由党:10%、社会党:10%等。
- ・10月26日から11月13日にかけて1,109名を対象に実施。
[モルドバ社会・人口学協会](18日付発表)
共産党:19.4%、自由民主党:15.1%、民主党:12.4%、社会党:11.6%、祖国(パトリア)党:8.1%、自由党:7.1%等。
 - ・11月1日から10日にかけて1,591名を対象に実施。

2. 経済

- ・20日、カンドゥ経済次官は、ガस्पロムへの負債の支払いは来年早い段階を計画している旨発言(現在の負債額は4億ドル)。

※本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と表記しています。(了)